下関 2017しものせき観光キャンペーン 幕末維新150年スタート

山口県下関市は、2018年の明治維新150年に向けて様々な取り組みを行ってきた。2017年は幕末維新のシンボルイヤーとして、明治維新150年の前半の山場の年。下関市では、長府に2016年11月、下関市立歴史博物館がオープン。2016年3月には火の山ユースホステルが移転し新しい建物でオープンするなど受け入れ態勢の整備も進んでいる。山口県では、9月から12月まで、通常より実施期間が長い山口デスティネーションキャンペーンをJRグループと開催。JR西日本は、豪華観光列車「トワイライトエクスプレス瑞風」が6月17日に運行を開始。下関～長門～萩を結ぶ新観光列車も運行を開始するなど大規模な取り組みもスタートする。

長府に歴史博物館がオープン 幕末維新150年中心施設

下関市立歴史博物館（長府川端2丁目）

幕末維新発祥の地、長府にあった長府博物館が移転し新規施設として16年11月にオープンした。開館1カ月で約2万人の観覧者があり、当初の来館目標を大きく超える見込み。

収蔵品の数では全国トップレベルの坂本龍馬のゆかりの品をはじめ、古代から近世までの下関を紹介する。幕末だけでなく、源平、朝鮮通信使、近代の下関など、コーナーごとに特徴的な展示があるのも魅力。2017年度前半は高杉晋作関連の企画展、後半は坂本龍馬関連の特別展も開催される。

雨天時に対応できる観光施設としても魅力的で、文化財建造物や、下関市内の人気観光地の画像を360度のパノラマで視聴することができる。

さらにオストメイト対応多目的トイレ、駐車場、授乳室などがあり、バリアフリー観光や小さな子供連れのファミリー客にも対応している下関、長府観光のベースポイント。

1月16日からスタートする大政奉還150周年幕末維新スタンプラリーのスタンプスポットとなっており、高杉晋作のスタンプが入手できる。

料金は常設展示大人200円、大学生など100円、団体割引あり。時間は9時30分～17時（入館は16時30分）まで。休館日は月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始。

下関市立歴史博物館の外観

下関の山口DC目玉プラン

幕末維新特別企画 観光ガイドと歩く城下町長府

山口DC期間中の長府地区10月～11月の無料ガイドを実施。晩秋の紅葉シーズンに下関観光ガイドが城下町長府を案内。功山寺、長府毛利邸、乃木神社、長府庭園など紅葉の各所へ案内する。期間は10月11月の土、日、祝日。料金は無料。時間は10時～15時。数名からの対応可。

関門海峡ぐるっと夜景バス

山口DC期間中に同バスが運行される。今年度は3月25日までの土曜日に運行。

関門海峡は1日に大小約600隻の船が行き交う。下関屈指の人気観光スポットは夜の姿もまた昼とは違った美しさがある。関門橋、港、行き交う船、周辺のライトアップ施設も含めた関門海峡一帯の見所を、同乗する観光ガイドの解説つきで楽しめる。小倉駅出発と下関出発の2コースがある。下関発着コースは、下関駅南口から、カモンワーフ、海峡ビューしものせきをめぐり、北九州側に向かい、門司港レトロ、めかり第二展望台をまわる。

期間は3月25日までの土曜日。3月19日も運行。

下関市立歴史博物館の常設展示

南風泊（はえどまり）市場「ふく競り」見学ツアー

南風泊（はえどまり）市場「ふく競り」見学ツアー

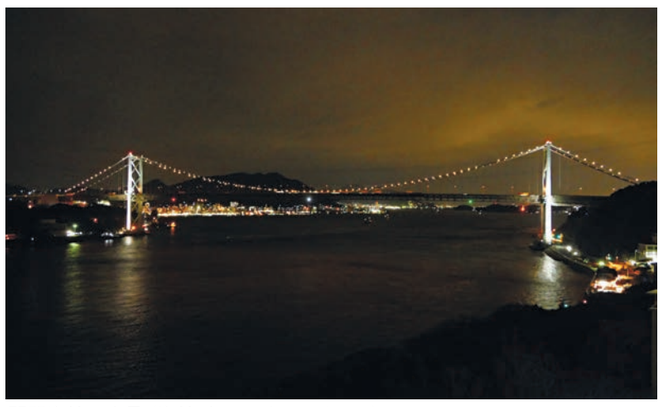
365日24時間の観光が楽しめるといわれたことのある下関。

寝静まった時間にクライマックスを迎えるのが市場見学観光。山口DCにあわせて、普段は見学できない日本一のふくの取扱量を誇る市場の南風泊市場の見学が可能。ふくの競りは「袋競り」という独特の方法で行われる。仲介者と買い手が「ええか、ええか」の掛け声とともに筒状の布袋の中に入れて仲介者の指を買い手が握ることで値段をつける。普段は入れない「ふく競り」の様子を特別に見学できる。また、ふくの処理の見学と、ふく汁の振る舞いも行われる。

実演期間はDC期間中に4回程度実施。時間は午前3時～5時（予定）、料金は無料。対象は下関市内の宿泊者（定員各40人）。

関門海峡夜景クルージング

運行日当日に下関市内に宿泊した人を優先的に招待するナイトクルージング。普段は見られない関門海峡からの下関・門司港、両岸の夜景を楽しめる特別ツアー。山口DC期間中に実施予定で、実施曜日は検討中。9月と10月は18時～19時予定。11月12月は17時30分～18時30分予定。定員各70人。料金は下関市内宿泊者は大人1千円、小学生500円。通常料金は大人2千円、小学生1千円。大人1人につき未就学児1人無料。


関門海峡の夜景（海峡ビューしものせきから）

JR西日本　下関総合車両所見学ツアー

JR西日本 下関総合車両所 見学ツアー

普段は立ち入ることのできないJR西日本下関総合車両所の見学ツアー。見学内容は総合車両所の概要紹介、車両機器・構造の紹介、車体上げ、車輪抜き作業の紹介など。DC期間中に2回実施。料金は無料。定員各20人。今年度は人気ですぐ定員となっている。

しものせき維新まつり

2018年、明治維新から150年目の節目の年を迎えるにあたって開催される新しいまつり。近代社会への礎にもなった明治維新は日本人の価値観や人生観さえも大きく転換させ、日本は活力ある国際社会の一員を目指して歩み始めた。山口県や下関市は、高杉晋作や坂本龍馬をはじめとする多彩な志士たちが街中を闊歩し時代を動かそうと燃えたぎる想いを放っていた街。2018年の維新150年はあらためて下関市が維新発祥の地であることを再認識すると共に、全国に向けて「維新」の地を発信する絶好の機会として、「維新」をキーワードとした観光客向けの「しものせき維新まつり」を開催し全国から観光客の誘致を目指す。

フォトグラファーと行く特別な下関バスツアー

現地でプロのカメラマンからアドバイスが受けられる撮影ツアー。

①「100万本のコスモスと山陰の海」のツアー。秋のシーズンのベストスポットを厳選。開催日時は9月30日、10月1日の12時30分～18時。

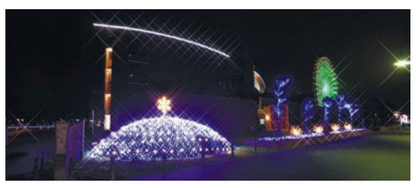
②「関門海峡夕景・夜景」のツアー。関門海峡の夕景と夜景の両方を堪能。開催日時は11月12日、11月19日の15時～20時30分。有料。定員各40人。

幕末・維新ふく福ウォーク

ふくの街下関市には街のいたるところに「ふくのいたるところに「ふく」にまつわるものがある。これらを下関の歴史と交えて楽しく紹介。参加者にはもれなく幸福を招く「ふくグッズ」を進呈する。日時は9月2日、10月29日、11月11日。時間は9時～（所要時間2時間）。定員各40人。料金は無料。

灯りのまち イルミネーション水族館

関門海峡沿いの夜をイルカやアシカなどのイルミネーションで彩る初夏の人気企画をDC期間中も特別に実施。大幅にグレードアップした演出も楽しめる。期間は山口DC期間をカバーする9月上旬～12月下旬で実施。時間は18時～22時。場所は唐戸地区（カモンワーフから海響館横のボードウォーク）。


イルミネーション水族館

幕末・維新ふく福ウォーク

歴史体感☆紙芝居

懐かしい紙芝居用自転車を忠実に再現し、個性豊かな演者が臨場感あるパフォーマンスと語りを披露。観覧無料、予約不要、プレゼントありの下関の人気企画。2017年の新演目「下関とふく（仮称）」が誕生。場所はみもすそ川公園。時間は10時～15時の間で人が集まり次第、各回10分程度。

企画旅プラン

城下町長府ひなまつり

女子旅のイメージ

しものせき女子旅キャンペーン

テーマは「体験」。大正袴の着付け体験や地元で収穫されたそばでそば打ち体験、高杉晋作ゆかりのお寺「功山寺」で座禅体験など下関でしかできない体験を用意。女子限定スイーツも。期間は3月12日～5月末まで。

女子旅に関連して、城下町長府ひなまつりが2月4日から3月26日まで開催予定。

情緒ある城下町長府地区で色とりどりの「つるし飾り」や先祖代々引き継がれてきた「雛人形」がお出迎え。長府の町並みを散策しながら雛飾りも一緒に楽しめる。昨年は、京都の上賀茂神社から木目仕込み人形伝承者の認定を受けた初代金林真多呂氏の作として注目を集めた。今回も長府庭園と長府毛利邸で期間限定お披露目。

自転車旅のイメージ

自転車旅in下関

海峡の風を感じ緑の里側の眺望が楽しめる。屋外には、テラスにウッドデッキを設置。絶景を眺めながらのバーベキューも可能。ピザ窯やカレー作りなどの屋外施設も設置。食堂では、下関名物のふく料理を手軽な値段で楽しめる。浴室があるほか、外国人旅行客に対応して、個別利用できるシャワー室も設置。

2人部屋と8人部屋に加え、4人部屋を新設。家族客にも利用しやすくした。専用のユニットバスが付いたバリアフリータイプの特別室1室も設置。定員は62人に増えた。

研修・会議室もつくられ、合宿や企業研修にも対応している。客室の構成は、バリアフリー特別室4人部屋（1室）、2人部屋（3室）。相部屋（ドミトリー）タイプは、4人部屋（3室）、8人部屋（5室）。料金は素泊まりで大人3500円～、小中学生2700円～、幼児1600円～。チェックインは15時、チェックアウトは10時。

ユースホステルのバリアフリー特別室4人部屋（1室）

火の山ユースホステル「海峡の風」

下関満関善席 高級フルコース

下関満関善席（海峡ビューしものせき）

下関の旬の食材、名産の極上グルメコースによる下関オリジナルフルコース足させる。期間は通年。料理。下関の食といえば接待や記念旅行での利用言わずと知れた取扱量日本一の「ふく」が多く、毎月約100食をはじめ、水揚げ高日本一のあの乗客には、試してもらんこう、今では希少品となったしむものと考えるなら、まさにくじら、北浦のうに、特が販売される。対象店舗牛イカ、安岡ねぎ、垢田は下関市内の認定を受けトマトなど全国に誇れるた各料理店13店舗（2016年10月現在）。料理素材がたくさんある。これらを最高級のおもてなしの価格は1人1万800円～5万円。

季節に応じて食材が異なるため詳細については各店舗に問い合わせが必要。前泊や後泊など瑞風の乗客には、試してもらい たい下関の豪華料理ということで、鯨の陶板焼き、特牛イカの素焼きなど下関のグルメ食材を使った本格的な会席料理が並ぶ。鮟鱇の唐揚げ、鯨の竜田揚げも素朴で懐かしさを感じさせる。

もうひとつの特徴は、締めの御飯が、河豚、雲丹、栄螺（さざえ）の3種類の釜飯から選べる。雲丹の黄金色に染まる釜飯も必見だ。

下関の誇る高級な食材 ふく刺しの美しさが光る

下関満関善席ということで、鯨の陶板焼き、特牛イカの素焼きなど下関のグルメ食材を使った本格的な会席料理が並ぶ。鮟鱇の唐揚げ、鯨の竜田揚げも素朴で懐かしさを感じさせる。

もうひとつの特徴は、締めの御飯が、河豚、雲丹、栄螺（さざえ）の3種類の釜飯から選べる。雲丹の黄金色に染まる釜飯も必見だ。

同館の下関満関善席は館内で提供されるコース料理の中では、人気の河豚コースと同じ最高クラスの1万2960円（税込）。南風泊市場から仕入れた〝とらふく刺し〟は、なるため詳細については美しい大皿に、職人の技術が光る盛り付けが圧巻。料理は、まず目で楽

しものせき観光キャンペーン実行委員会（下関市観光政策課）
山口県下関市田中町5－6　TEL：083－231－1350
http://shimonoseki.travel/
※旅行関連業者対象コンテンツを公開中